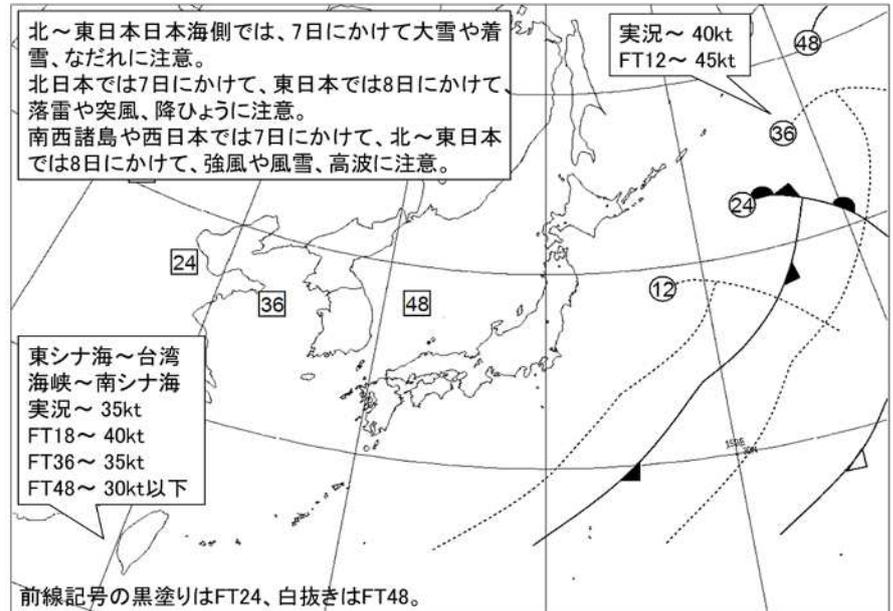


1. 実況上の着目点

- ① 関東の東には前線を伴った低気圧があって、北東進。低気圧から前線が日本のはるか東～日本の南～南西諸島の南海上へのびている。
- ② ①の前線の北側にあたる北～西日本及び南西諸島では降水域が広がっている。また、北日本～日本海西部に下層寒気が流入しており、5日21時の札幌の高層観測では、850hPaで-8.7℃を観測。北～東日本の山沿いを中心に降雪となっており、多い所で3時間5～10cmを観測。
- ③ ①の低気圧周辺や前線近傍では、気圧の傾きが大きく、全国的にやや強い風や強い風が吹いて、波が高くしけとなっている所がある。



主要じょう乱解説図

2. 主要じょう乱の予想根拠と防災事項を含む解説上の留意点

- ① 1項①の前線を伴った低気圧は、発達しながら北東進し、7日朝は千島の東、8日はカムチャツカの東へ進む。この低気圧と大陸の高気圧により日本付近は、7日朝にかけて西高東低の気圧配置となる。北～西日本には850hPa -9℃以下の寒気が流入し、大気の状態が不安定となり、北～東日本の日本海側を中心に大雪となる所がある。北～東日本では7日にかけて、大雪や着雪、なだれ、落雷や突風、降ひょうに注意。また、低気圧や西高東低の気圧配置の影響で、気圧の傾きが大きくなり、雪を伴った強い風が吹いて、波が高くしけとなる所がある。全国的に7日にかけて、強風や風雪、高波に注意。
- ② 大陸の高気圧が東進し、7日朝に黄海付近、8日朝には日本海中部、8日夜には東北地方付近に進む。このため7日は次第に西高東低の気圧配置が緩み、8日は西～東日本の日本海側では高気圧に覆われて晴れる所が多い。
- ③ 東日本太平洋側や南西諸島では8日は、2項②の高気圧の縁にあたり、気圧の谷となる。気圧の谷に向かって850hPa θ e300K以上の下層暖湿気が流入し、大気の状態が不安定となる。また、2項①の低気圧や気圧の谷と、2項②の高気圧との間で気圧の傾きが大きくなり、やや強い風や強い風が吹いて、波が高い所がある。東日本太平洋側では8日は、落雷や突風、降ひょう、急な強い雨に注意し、北～東日本では8日は、強風や高波に注意。

3. 数値予報資料解釈上の留意点 総観場はGSMを基本、量予想や降水分布はMSMやLFMも参考。

4. 防災関連事項 [量的予報等] ① 雨量(06時からの24時間)：多い所(100mm以上)はない。

② 降雪量(06時からの24時間)：北陸35、北海道・東北30、関東甲信20、東海・中国15、近畿10cm。

③ 波浪(明日まで)：東北5、北海道・伊豆諸島・沖縄4、その他広い範囲で3m。

5. 全般気象情報発表の有無 発表の予定はない。